
宮崎県埋蔵文化財センター一年報

第 2 0 号

平成 2 8

(2 0 1 6)

年 度

2 0 1 6



交差する歴史と神話
みやざき発掘100年

宮崎県埋蔵文化財センター

〒 8 8 0 - 0 2 1 2 宮崎市佐土原町下那珂 4019 番地
T E L 0985-36-1171・1172 F A X 0985-72-0660
E - mail maizobunkazai-c@pref.miyazaki.lg.jp

序

本書は、当センターの概要と平成27年度に実施した諸事業についてまとめたものです。

平成27年、宮崎県におきまして、このさき4年間で優先的に取り組む施策内容を示す「アクションプラン」の策定や平成23年に策定しました「第二次宮崎県教育振興基本計画」の改定が行われました。その中にはふるさとへの誇りや郷土愛を育てる取組の推進やアウトリーチ活動の充実などの方針が示されています。

このような施策と密接に関わる当センターでは、平成27年度、各種開発事業に伴う8遺跡の発掘調査のほか6遺跡の報告書を刊行するなど、出土した文化財の整理、収蔵、公開を実施いたしました。

また、各種開発事業に伴う発掘や確認調査に加え、重要性のある古墳の保護活用の推進を図るため、県内に数多く所在する古墳の悉皆調査や地中レーダー探査等の調査を進めているところであります。

さらに、県民の方々が文化に親しんでいただくための機会の拡充を目的に、神宮分館での常設展や発掘成果展に加え、27年度から新たに「ふるさと発掘！埋文キャラバン」事業を立ち上げ、五ヶ瀬町、川南町の2会場で講座や関連イベントを行ったほか、施設公開や「みやぎきの埋蔵文化財ハンドブック」の作成など埋蔵文化財の保護と活用にも積極的に取り組んでいるところです。

平成28年度は、継続して都城志布志道路、高千穂日之影道路、東九州道スマートIC建設などの発掘調査や「埋文キャラバン」などの教育普及活動を計画しているところであり、これまで以上に発掘調査の成果や各種講座等の内容を充実させ、県民の皆様に、郷土の歴史を身近なものとして感じていただける機会をできるだけ多く設けてまいりたいと考えております。

今後とも、当センター職員が一丸となり業務に取り組んで参りますので、関係各位の御理解と御協力をお願い申し上げます。

平成28年5月

宮崎県埋蔵文化財センター
所長 谷口武範

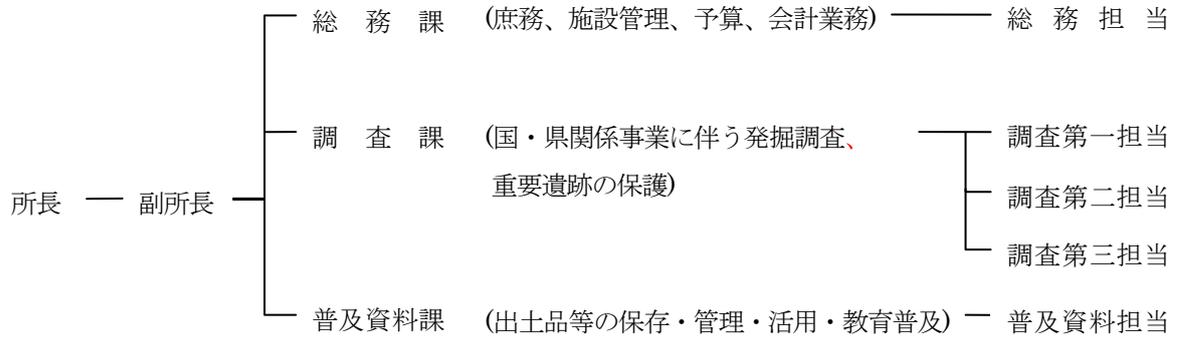
目 次

I	組織・施設	1
II	埋蔵文化財センターの沿革	3
III	平成27年度の活動状況	5
1	埋蔵文化財緊急調査等	5
(1)	発掘調査	5
(2)	発掘調査に伴う調査指導及び職員の資料調査	7
(3)	出土遺物等整理及び発掘調査報告書の刊行	7
(4)	重要古墳等保護活用推進事業	8
(5)	保存処理	10
(6)	収蔵整理	10
2	教育普及活動	11
(1)	ふるさと発掘！埋文キャラバン事業	11
(2)	埋蔵文化財講座「ここまでわかったひむかの歴史」	11
(3)	埋文センター施設公開・体験講座	12
(4)	遺跡発掘速報展・遺跡発掘速報会	13
(5)	分館テーマ展示	13
(6)	出前展示	14
(7)	出前講座	15
(8)	現地説明会・発掘体験	15
(9)	見学・研修等で訪れた団体および職場体験の受け入れ	15
(10)	資料等の提供	17
(11)	職員派遣	20
(12)	埋蔵文化財担当専門職員研修会	20
(13)	広報出版物	21
(14)	ホームページ	21
3	会議・職員研修	21
(1)	各種会議等への参加	21
(2)	共同研究への参加	22
(3)	労働安全衛生関係の講習会等への参加	22
IV	宮崎県埋蔵文化財センター管理規則	23

I 組織・施設

組織

(平成 28 年 4 月 1 日現在)



所長	谷口 武範	調査第二担当
副所長	菅付 和樹	主幹 吉本 正典 (高速道対策局・併)
総務課		主査 橋本 英俊 (高速道対策局・併)
課長	荒木 智恵美	主査 松浦 朋彦 (高速道対策局・併)
総務担当		主査 甲斐 貴充 主査 金丸 大全 (高速道対策局・併)
副主幹	寺原 真由美	主査 徳原 宏樹
主査	関 雅文	主査 恵利 武馬
主査	赤木 恭子	主任主事 後藤 清隆
調査課		調査第三担当
(兼)課長	菅付 和樹	副主幹 日高 広人
調査第一担当		主査 高橋 浩子 主査 木場 正浩
主幹	松林 豊樹	普及資料課
主査	和田 理啓	課長 赤崎 広志
主査	永野 一美	普及資料担当
主査	高村 哲	副主幹 根井 英樹
主査	徳田 尚文	主査 川越 祐一 (非常勤職員)
主査	甲斐 尚和	整理専門員 貴嶋 活実
専門主事	長津 宗重	
主任主事	加藤 徹	

施設

(本館) 宮崎市佐土原町下那珂4019

本館 2,656.50 m²

① 管理棟・調査研究棟 (鉄筋コンクリート造一部木造平屋建) 1,745.99 m²

事務室 57.76 m²

所長室 19.86 m²

情報処理室 33.17 m²

会議室 78.52 m²

休憩室 78.52 m²

調査研究室 248.55 m²

復元整理室 293.44 m²

一次処理室 96.81 m²

図面整理室 61.62 m²

写場 64.20 m²

暗室 12.65 m²

一次保管室 (2層) 188.00 m²

図書室 (2層) 193.88 m²

荷捌室 43.01 m²

その他 276.00 m²

② 整理作業棟 (収蔵庫) (鉄骨造) 216.76 m²

③ 収蔵庫棟 (鉄骨造) 693.75 m²

(分館) 宮崎市神宮2丁目4-4

分館 (鉄筋コンクリート造2階建) 1,652.38 m²

1階 877.58 m²

一次処理室 121.20 m²

復元整理室 148.30 m²

保存処理室 49.30 m²

(鉄器 22.70 m²)

(木器 26.60 m²)

研修室 143.20 m²

事務室 41.80 m²

展示室 150.00 m²

器材庫 11.00 m²

エントランスホール他 212.78 m²

2階 774.80 m²

写場・暗室 49.30 m²

写真保管室 35.10 m²

図面保管室 53.10 m²

収蔵整理室 19.30 m²

収蔵室 564.00 m²

特別収蔵室 54.00 m²

Ⅱ 埋蔵文化財センターの沿革

西暦	年月日	事項
1980	昭55	「埋蔵文化財調査センター建設計画」立案
1981	56	基本設計を実施
1982	57. 1. 9 7. 29 10. 2	起工式 竣工 宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターとして宮崎市神宮2丁目4-4に設置。 センター長吉田敏明（兼博物館副館長）以下本務職員2名（岩永哲夫、谷口武範）、兼務職員8名、嘱託2名 発令。出土品等の整理保管と教育普及活動を行う。 開館記念講演「日本文化のふるさとをたずねて、東南アジアの旅から」 （講師：国立民族学博物館教授 佐々木高明）
1983	58. 4. 1	センター長細川達雄発令。本務職員を3名（茂山護、岩永哲夫、谷口武範）に増員する。
1984	59. 4. 1	（茂山護転出、菅付和樹転入）
1985	60. 11. 2	文化財保護強調週間の行事として施設公開を初めて行う。
1986	61. 4. 1 61. 7	センター長久徳菊雄発令。兼務職員7名になる。 毎月第4土曜日の映写会「遺跡をたずねて」を始める。
1987	62. 3 62. 4	埋蔵文化財調査研究報告第1集「陣内第2遺跡、蓮ヶ池横穴墓群―遺物編」刊行。 埋蔵文化財講座を始める。
1988	63. 3 63. 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第2集「下那珂貝塚」刊行 センター長長友巖発令。本務職員1名（菅付和樹）、兼務職員9名となる。
1989	平1. 4. 1	センター長石井祥博発令。本務職員1名（永友良典）、兼務職員11名となる。
1990	2. 3 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第3集「下北方古墳―遺物編」刊行。 兼務職員13名となる。
1991	3. 3 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第4集「下弓田遺跡―資料編1」刊行。 センター長木幡文夫発令。設備充実の一環として、軟X線撮影装置等を導入する。
1992	4. 4. 1	センター長藤崎景二発令。 埋蔵文化財センター開設10周年記念企画展「宮崎の埋文情報展'82～'91」を開催する。 脱塩装置、赤外線TVカメラシステム等を導入する。
1993	5. 4. 1 9. 15	センター長後藤健志発令。本務職員1名（長津宗重）、兼務職員15名となる。 空調設備増設
1994	6. 3. 8	特別収蔵庫設置
1995	7. 1. 29 2. 16 4. 1	一般収蔵庫増設工事完成 屋根防水工事完了 センター長関屋清志発令。本務職員1名（長津宗重）、兼務職員24名となる。 県文化課埋蔵文化財第二係（調査部門）を埋蔵文化財センターに置く。
1996	8. 4. 1	宮崎県埋蔵文化財センターとして総合博物館から分離独立し、庶務係、調査第一係、第二係、教育普及係（第二係兼務）を置く。 所長藤本健一以下職員37名、嘱託1名発令。 鶴島分室（旧婦人相談所：宮崎市鶴島2丁目11-25）を設置し、調査第一係（東九州自動車道担当）を置く。
1997	9. 3. 17 4. 1	分室を国富（旧国富農業改良普及センター：国富町大字本庄4777-2）に移転する。 職員37名、嘱託7名となる。
1998	10. 4. 1	所長田中守発令。職員39名、嘱託8名となる。
1999	11. 4. 1	職員42名、嘱託8名となる。
2000	12. 1. 20 4. 1	佐土原町に新館が完成し、国富分室を統合廃止する。神宮の旧本館を分館とする。 所長矢野剛発令。課制となり、総務課、調査第一課、調査第二課、普及資料課を置く。 職員52名、非常勤職員12名となる。分館（研修室、事務室、図面保管室、写真保管室）改築工事完成
2001	13. 4. 1 7. 1	職員59名、非常勤16名となる。 調査第一課調査研究室設置
2002	14. 4. 1	所長米良弘康発令。職員63名、非常勤職員17名となる。
2003	15. 4. 1	職員64名、非常勤15名となる。
2004	16. 4. 1	所長宮園淳一発令。職員62名（うち任期付き職員13名）、非常勤職員12名となる。 収蔵庫用に旧爾検定工場を農政企画課から所管換え。

西暦	年月日	事 項
2005	17. 3. 8 4. 1 8. 18 11. 16	収蔵第一期工事完成。 職員61名（うち任期付き職員19名）、非常勤職員9名となる。 収蔵第二期工事完成。 調査一課整理棟の設置。（東畦原整理作業棟撤去に伴い貸借開始）
2006	18. 4. 1	所長清野勉発令。職員 64 名（うち任期付き職員 18 名）、非常勤職員 8 名となる。
2007	19. 6. 1	職員 64 名（うち任期付き職員 19 名）、非常勤職員 3 名となる。
2008	20. 4. 1	所長福永展幸発令。職員 61 名（うち任期付き職員 16 名）、非常勤職員 2 名となる。調査第一課整理棟撤去。
2009	21. 4. 1	職員 59 名（うち任期付き職員 18 名）、非常勤職員 1 名となる。
2010	22. 4. 1	所長森隆茂発令。職員 62 名（うち任期付き職員 18 名）、非常勤職員 1 名となる。
2011	23. 4. 1	職員 53 名（うち任期付き職員 15 名）、非常勤職員 1 名となる。
2012	24. 4. 1	所長北郷泰道発令。職員 42 名（うち任期付き職員 7 名）、非常勤職員 1 名となる。
2013	25. 4. 1 10. 12 ～ 12. 8	所長向井大蔵発令。職員 31 名、非常勤職員 1 名となる。 特別展『みやざき発掘 100 年ーいこしえの「道」と交流』開催
2014	26. 4. 1	所長岩切隆志発令。職員 28 名、非常勤職員 1 名となる。調査第一課と調査第二課を統合し、調査課を置く。
2015	27. 4. 1	旧調査第一課調査研究室撤去
2016	28. 4. 1	所長谷口武範発令。

Ⅲ 平成27年度の活動状況

埋蔵文化財センターは次に掲げる業務を行っている。

- 1 埋蔵文化財の調査研究
- 2 出土品その他の資料の保存及び活用
- 3 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備
- 4 埋蔵文化財関係者の専門的・技術的な研修及び指導
- 5 埋蔵文化財保護思想の普及及び啓発

平成27年度は以下に記述する事業を実施した。

1 埋蔵文化財緊急調査等

(1) 発掘調査

国、県施設の建設に伴う試掘・確認調査や発掘調査を実施している。本年度は高樋遺跡（都城市）、笹ヶ崎遺跡（都城市）、平底第2遺跡（日之影町）、塚原遺跡（国富町）など8箇所の本調査を実施した。

発掘調査一覧

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者	調査原因
1	高樋遺跡	都城市 梅北町	縄文早期	集石遺構3 基、土坑1基	塞ノ神式土器・ 石器	H27. 4. 20 }	4,400 m ²	徳田尚文 後藤清隆 二方和也 松林豊樹	県道飯野 松山都城線 (都城志布志 道路) 建設 梅北工区
			縄文前～ 中期	集石遺構3 基、土坑3基	春日式、深浦式 土器、石器	H28. 2. 3 (実調査日数 155日)			
			縄文後～ 晩期		三万田式、孔列 文土器、組織痕 土器、石器				
			古墳時代	竪穴建物跡10 基	土師器、韃の羽 口、鉄器				
			中世	溝状遺構6 条、掘立柱建 物20棟	陶磁器鉄製品、 銅銭				
2	保木島 遺跡	都城市 梅北町	縄文早期	散磔	天道ヶ尾式土 器・石器	H27. 5. 20 }	1,200 m ²	二方和也 徳原宏樹	県道飯野 松山都城線 (都城志布志 道路) 建設 金御岳工 区
			縄文後～ 晩期	陥穴状遺構1 基		H27. 10. 7 (実調査日数 81日)			

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者	調査原因
			古代～中世	掘立柱建物跡 1軒	土師器 陶磁器				
3	笹ヶ崎遺跡 第3次調査	都城市 梅北町	縄文前～中期		縄文土器、石器	H27. 7. 1 }	500 m ²	甲斐貴充 吉本正典	県道飯野 松山都城線 (都城志布志 道路) 建設 梅北工区
			縄文晩期		組織痕土器	H27. 8. 28			
			古墳時代	土坑1基	土師器	(実調査日数 35日)			
			古代	道路状遺構	土師器、石帯				
			中世	溝状遺構2 条、柵列2条	土師器、陶磁器				
4	潮遺跡	西都市 大字 鹿野田	古代	土坑6基、溝 状遺構3条、 自然流路	土師器 須恵器	H27. 12. 14 } H28. 2. 4 (実調査日数 31日)	400 m ²	徳原宏樹 加藤徹	県道札の 元佐土原 線道路改 良工事
5	平底第2 遺跡	日之影町 大字七 折	縄文晩期	—	黒色磨研土器	H28. 2. 2 }	500 m ²	加藤 徹 根井英樹	高千穂日 之影道路 (平底地区) 建設
			弥生	竪穴建物1	土器、石器	H28. 3. 25 (実調査日数 31日)			
6	平田遺跡	都城市 南横市町	弥生	周溝状遺構2	土器、石器	H27. 5. 20 }	7,200 m ²	橋本英俊 長津宗重	国道10号 都城道路 工事
			中世	小溝状遺構	陶磁器	H28. 3. 18			
			近世	溝状遺構2 墓坑4	陶磁器	(実調査日数 170日)			
7	塚原遺跡	国富町 大字 岩知野	古墳	土坑状凹部	土師器	H27. 10. 26 }	8,600 m ²	後藤清隆 近藤 協 甲斐貴充	国富 スマート IC建設
			中世	水田遺構(畦 畔)、溝状遺 構	土師器、陶磁器、 木製品	H28. 3. 24 (実調査日数 88日)			
8	山ノ口原	小林市 東方	旧石器	礫群1	旧石器	H27. 10. 26 }	1,600 m ²	松浦朋彦 近藤 協	西諸(二期) 農業水利 事業 山之口 ファーム
			縄文		縄文土器、石器	H28. 3. 25			

遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者	調査原因
					(実調査日数 77日)			ポンド工事

(2) 発掘調査に伴う調査指導及び職員の資料調査

慎重な比較検討を要する遺跡の調査を実施するにあたって、調査方法等の指導を受けるため各分野の専門の研究者を招聘している。また、職員を派遣し、位置づけの明確でない遺構や遺物について調査を行うものである。

<調査指導>

所属・氏名	指導内容	場所	日程
本年度はなし			

<資料調査>

目的	出張先	日程	出張者
本年度は該当なし	—	—	—

(3) 出土遺物等整理及び発掘調査報告書の刊行

埋蔵文化財センターでは、発掘調査で出土した遺物等の水洗、注記から実測、製図までの整理を行い、発掘調査報告書を作成している。本年度整理を実施した遺跡は7遺跡で、内訳は高規格道路が県土木事務所事業4遺跡、西諸農水事業・河川改修・スマートIC事業が各1遺跡である。また、整理作業の終了した6遺跡については発掘調査報告書を刊行した。

出土遺物等整理対象遺跡一覧

遺跡名	事業名	事業者
山ノ口原遺跡	西諸（二期）農業水利事業山之口原ファームポンド工事	九州農政局西諸農業水利事業所
大窪第1遺跡	西久保地区河川改修事業	国土交通省九州地方整備局 宮崎河川国道事務所
大年遺跡	県道飯野松山都城線（都城志布志道路）梅北工区道路 整備工事	県土整備部都城土木事務所
中床丸遺跡		
笹ヶ崎遺跡		
高樋遺跡		
塚原遺跡	国富スマートインターチェンジ（仮称）整備工事	NEXCO西日本、高岡土木事務所

発掘調査報告書刊行一覧

集	報告書名	副書名	執筆・編集者
1 236	一本松遺跡	国道269号山之口SASIC道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	徳田尚文
2 237	大年遺跡	県道飯野松山都城線(都城志布志道路)道路整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1	加藤 徹
3 238	大窪第1遺跡	西久保地区河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	日高広人
4 239	中床丸遺跡(第一次・二次)	県道飯野松山都城線(都城志布志道路)梅北工区道路整備工事に伴う発掘調査報告書2	永野一美
5 240	笹ヶ崎遺跡(第一次～第三次調査)	県道飯野松山都城線(都城志布志道路)梅北工区道路整備工事に伴う発掘調査報告書3	山元清春、根井英樹、 甲斐貴充
6 241	山ノ口原遺跡	平成27年度西諸(二期)農業水利事業山之口原ファームポンド工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書	松浦朋彦

(4) 重要古墳等保護活用推進事業

県内に数多く所在する古墳の現状把握や基礎調査をはじめ重要性のある古墳等の調査・研究を行い、国や県による新たな史跡指定及び指定拡大を目指すなど古墳の保護活用の推進を目的として以下の調査を実施している。

① 古墳の悉皆調査

県指定及び未指定古墳については、総数を県指定古墳 941 基（所在未確認 142 基、指定内容に確認が必要な古墳 40 基を含む）、未指定古墳 350 基以上の総計 1,291 基以上と想定し、これらの現状把握とGPSによる位置情報の蓄積および墳丘規模の計測作業を行っている。本年度は県指定高千穂町古墳や県指定岩戸村古墳など 884 基について実施した。

悉皆調査一覧

市町村名	古墳名	基数	調査担当者
高千穂町	高千穂町古墳(県指定)、岩戸村古墳(県指定)、田原村古墳(県指定)、押方南平横穴墓群(未指定)	28	日高広人 高橋浩子
日之影町	岩戸村古墳(県指定)、七折村古墳(県指定・未指定)	8	木場正浩
延岡市	南浦村古墳(県指定)、北方村古墳(県指定)、西階横穴墓群(未指定)、丸山塚古墳(未指定)	8	加藤 徹 二方和田
日向市	細島町古墳(県指定)、富高町古墳(県指定・未指定)、美々津町古墳(県指定)、深溝古墳(未指定)、比良山古墳(未指定)	14	
門川町	門川町古墳(県指定・未指定)	8	
美郷町	西郷村古墳(県指定・未指定)、南郷村古墳(県指定)	4	

市町村名	古墳名	基数	調査担当者
都農町	都農町古墳（県指定・未指定）	10	
川南町	川南村古墳（県指定）	3	
高鍋町	高鍋町古墳（県指定・未指定）	43	
木城町	木城村古墳（県指定・未指定）	19	
西都市	松本古墳群（県指定・未指定）、清水古墳群（県指定・未指定）、百塚原古墳群（県指定・未指定）、永野古墳群（県指定）、境田古墳（県指定）、平郡古墳群（県指定）、九流水横穴墓群（県指定・未指定）、下三財古墳群（県指定）、常心原古墳群（県指定）、上高野横穴墓群（県指定・未指定）、上穂北村古墳（県指定・未指定）	261	
宮崎市	佐土原町古墳（県指定）、那珂村古墳（県指定・未指定）、広瀬村古墳（県指定・未指定）、住吉村古墳（県指定・未指定）、瓜生野村古墳（県指定・未指定）、倉岡村古墳（県指定・未指定）、生目村古墳（県指定・未指定）、木花村古墳（県指定）、青島村古墳（県指定）、高岡町古墳（県指定）、村角古墳（未指定）、櫛古墳（未指定）	326	
国富町	本庄町古墳（県指定）、木脇村古墳（県指定）、八代村古墳（県指定）	26	
都城市	志和池村古墳（県指定）、都城市沖水古墳（県指定）、山之口村古墳（県指定）、高崎町古墳（県指定・未指定）	41	
小林市	小林町古墳（県指定）、東二原地下式横穴墓群（県指定）、須木村古墳（県指定）、野尻村古墳（県指定）	29	
高原町	高原町古墳（県指定）	6	
えびの市	飯野村古墳（県指定）、眞幸村古墳（県指定・未指定）	31	
日南市	南郷村古墳（県指定・未指定）	2	
串間市	福島町古墳（県指定・未指定）、市木村古墳（県指定）、都井村古墳（県指定・未指定）、本城村古墳（県指定・未指定）	17	

② 重要古墳の確認調査

県指定古墳の中で、本県及び所在する地域の歴史にとって特に重要と考えられる古墳を選定し、確認調査や地中レーダー探査を実施している。本年度は百塚原古墳群（旧 妻町清水・西原古墳）や眞幸村古墳（島内地下式横穴墓群）の地中レーダー探査を実施した。

確認調査一覧（地中レーダー探査）

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	調査期間	調査面積	調査担当者
1	百塚原古墳群 （旧 妻町清水・西原古墳）	西都市 大字三宅	古墳	消失墳（円墳）10基 地下式横穴墓	H27. 4. 14 H27. 4. 15 H28. 1. 27 H28. 1. 28 （実調査日数4日）	13,000 m ² 4月（5,700 m ² ） 1月（7,300 m ² ）	高橋浩子（ほか） 西都原考古博物館

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	調査期間	調査面積	調査担当者
2	眞幸村古墳 (島内地下式横穴墓群)	えびの市 大字島内	古墳		H28. 3. 29 H28. 3. 30 (実調査日数2日)	3,800 m ²	高橋浩子 ほか 西都原考古博物館

(5) 保存処理

普及資料課では、出土した金属製品や木製品について保存処理を行っている。本年度は、12 遺跡の木器 40 点、鉄器 10 点の処理が完了した。このほか予防保存の観点から保存処理室の除湿機能を高めるとともに、特別収蔵庫の整理を行い保存環境の向上が図られた。

鉄器及び木器保存処理実施の遺跡

遺跡名	主な器種	保存処理
大窪第 1 遺跡、百塚原古墳群、瀬戸前 1 号横穴墓、野首第 1 遺跡	鉄鏃、鉞、鉄鏃など	樹脂含浸まで実施
井手口遺跡、塚原遺跡、鳥の子遺跡、野首第 1 遺跡、林遺跡、町屋敷遺跡、柳迫遺跡、潮遺跡	木製品（杭）など	糖アルコール法にて処理 (乾燥工程まで)

(6) 収蔵整理

① 収蔵庫（分館）

分館収蔵庫には、登録を完了した遺物や登録作業途中・待機中の遺物を収蔵している。平成 27 年度末における収蔵量はコンテナ 9,007 箱である。

② 収蔵庫（本館）

新収蔵庫には、主に本館で整理作業の終了した遺物や登録待機遺物を収蔵している。平成 27 年度は、コンテナ 455 箱を搬入した。これまでに搬入した分と合わせると、コンテナ 14,365 箱の収蔵量となった。

③ 登録作業

分館における平成 27 年度の実績は 8 遺跡、コンテナ 100 箱である。登録累計 216 遺跡、コンテナ 5,562 箱となった。本館における同年度の実績は 8 遺跡、コンテナ 455 箱であり、累計 91 遺跡、コンテナ 3,034 箱となった。よって、平成 27 年度の本館と分館を合わせた登録収蔵総累計は、307 遺跡、コンテナ 8,596 箱である。

④ 図書資料

全国から送られてくる発掘調査等の報告書や購入書籍・雑誌類を図書室に集架している。平成 27 年度は 2,807 冊の受け入れがあり、合計収蔵数は 75,334 冊になる。バーコードを利用した図書管理システムを導入しており、パソコンを用いた図書類のデータベース登録を実施している。

2 教育普及活動

平成27年度の教育普及事業は、文化庁の補助事業として本年度から29年度までの3カ年行う移動展示会「ふるさと発掘！埋文キャラバン」を主要事業として実施した。昨年度休止していた埋蔵文化財講座「ここまでわかったひむかの歴史」は日曜日開催で年6回行い、「遺跡発掘速報会」も8月に行った。8月の夏休み体験講座も例年通り行い、「施設公開」も11月の文化財保護強調週間中に分館で行った。発掘調査の成果や遺物の保存処理の成果を公開する分館の展示は、年間3つのテーマに基づいて展示を行い、昨年度までの展示内容を一新して新たな展示として行った。なお、平成27年度の分館入館者は5,506名であった。

(1) 移動展示会『ふるさと発掘！埋文キャラバン』事業（文化庁補助事業）

埋蔵文化財センターの業務紹介と時代ごとの解説や遺物の展示、キャラバン講座や関連イベントの実施、「みやざきの埋蔵文化財ハンドブック」の作成・配布など、埋蔵文化財の保護を啓発するため県内の2会場で開催した。

- ① 名称：移動展示会『ふるさと発掘！埋文キャラバン』
- ② 主催：宮崎県埋蔵文化財センター
- ③ 共催：五ヶ瀬町・五ヶ瀬町教育委員会、川南町・川南町教育委員会
- ④ 後援：朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、西日本新聞社、宮崎日日新聞社、夕刊デイリー新聞社、NHK宮崎放送局、MR T宮崎放送、UMKテレビ宮崎、エフエム宮崎



⑤ 会場・会期：

- (ア) 五ヶ瀬町自然の恵み資料館 平成27年9月18日(土)～10月12日(月・祝)
(イ) 川南町立図書館 平成27年11月18日(水)～12月6日(日)

⑥ 観覧者数：(ア) 365名 (イ) 5,898名 総数 6,263名

⑦ 関連行事：各会場でキャラバン講座「宮崎の遺跡と埋文センター」、展示資料解説、土器文様拓本体験、花卉状住居ペーパークラフト、土器パズル、土器と石器の相談会等を行った。

(ア) 五ヶ瀬会場 平成27年9月27日(日) 参加者35名

(イ) 川南会場 平成27年11月23日(月・祝) 参加者1,601名



五ヶ瀬会場の展示



川南会場の展示



体験講座の様子

(2) 埋蔵文化財講座「ここまでわかったひむかの歴史」

近年発掘調査報告書を刊行した遺跡の最終成果報告講座として、年6回(5、6、7、12、1、2月の第3日曜日)、午後1時30分から午後3時まで分館研修室で講演会を実施し、関連する遺物も展示して解説を行った。また、参加者を増やす取り組みとして早期の広報活動や学校・団体へ直接出向いての依頼や

配布、スタンプカードによるリピーターの確保、アンケートによる評価の考察、児童生徒にもわかりやすい考古学資料の作成等に取り組み、各回の募集定員 30 名をほぼ越える参加者で実施することができた。

開催日	講演名	講師	参加者
第 1 回 H27. 5. 17	「五ヶ瀬川流域のムラ」 地蔵ヶ森遺跡（延岡市）	宮崎県埋蔵文化財センター 近藤 協	32 名
第 2 回 H27. 6. 21	「野尻の中世山城」 戸崎城跡（小林市）	宮崎県埋蔵文化財センター 二方和也	38 名
第 3 回 H27. 7. 19	「シラス台地に暮らした人々」 唐人町遺跡（串間市）	宮崎県埋蔵文化財センター 吉本正典	46 名
第 4 回 H27. 12. 20	「宮崎平野の古墳と集落」 竹之下遺跡など（宮崎市）	宮崎県埋蔵文化財センター 長津宗重	29 名
第 5 回 H28. 1. 17	「発掘された古代の都城志布志道路!？」 大年遺跡（都城市）	宮崎県埋蔵文化財センター 加藤 徹	32 名
第 6 回 H28. 2. 21	「大淀川と共に暮らした人々」 大窪第 1 遺跡（都城市）	宮崎県埋蔵文化財センター 日高広人	39 名

(3) 埋文センター施設公開・体験講座

例年、埋蔵文化財センターの事業の PR と埋蔵文化財愛護啓発の目的で「施設公開」を開催している。本年度は、文化財保護強調週間中の 11 月 3 日（火・祝）に、「埋文センターで考古学体験」と題して分館において終日開催した。また、夏休みの体験講座として、「石の矢じり製作体験」を行った。

【施設公開】「埋文センターで考古学体験」

開催日	開催場所	内容	参加者
H27. 11. 3	分館	土器水洗体験、土器接合体験、土器拓本しおり体験、発掘疑似体験、石器レプリカ製作体験、ドングリつぶし体験、竪穴住居ペーパークラフト、土器パズル等	184 名

【体験講座】「石の矢じり製作体験」

開催日	開催場所	内容	参加者
H27. 8. 9	分館	県内出土の打製・磨製の石鏃について歴史的背景や特徴などを学び、弥生時代の磨製石鏃をモデルに宮崎県産の石材を研磨して矢じりを製作した。また、埋文センターの業務紹介と収蔵庫見学なども実施した。	43 名



施設公開（接合体験）



施設公開（ドングリつぶし体験）



体験講座（石の矢じり制作体験）

(4) 遺跡発掘速報展・遺跡発掘速報会

埋蔵文化財センターが近年整理作業を行ったり、報告書を刊行した遺跡の資料を展示する遺跡発掘速報展 2015 を、県立図書館 2 階特別展示室において開催した。また、平成 26 年度に県内で埋蔵文化財センターが実施した発掘調査の成果について調査担当者が報告する遺跡発掘速報会を、県立図書館 2 階視聴覚室において行い、関連する遺物も展示した。

【遺跡発掘速報展 2015】

開催期間	開催場所	展示遺跡	参加者
H27. 8. 22 } H27. 9. 6	県立図書館 特別展示室	竹之下遺跡、多宝寺遺跡、権現昔遺跡（宮崎市）、坂ノ上遺跡、前畑遺跡（日南市）、大鹿倉遺跡、大谷遺跡（高原町）、倉内遺跡、妙見原第 2 遺跡（都城市）、唐人町遺跡（串間市）、生駒遺跡（小林市）、出羽洞穴、小峰窯跡、尾原遺跡（南九州短大旧蔵資料）	650 名

【遺跡発掘速報会】

開催日	開催場所	報告遺跡	参加者
H27. 8. 30	県立図書館 視聴覚室	中床丸遺跡、笹ヶ崎遺跡、一本松遺跡（都城市）、戸崎城跡（小林市）、鍋倉第 2 遺跡（えびの市）、百塚原古墳群（西都市）	95 名

(5) 分館テーマ展示

分館の展示室において、埋蔵文化財センターの業務の紹介や遺物の保存処理、発掘調査を行った遺跡について遺跡ごとに出土遺物を展示し、遺跡周辺の地域の歴史や文化を学ぶテーマ展示を年 3 回行った。

開催時期	開催場所	展示テーマ	展示遺跡・展示内容
H27. 4. 30 } H27. 8. 30	分館	県北の遺跡	黒仁田遺跡、地藏ヶ森遺跡、赤木遺跡第 8 地点、山田遺跡、山口遺跡、駄小屋遺跡、上三輪小切畑第 1 遺跡
H27. 9. 24 } H27. 12. 25	分館	保存処理とは	① 金属製品の保存処理 ・処理前に必要な作業と処理後の保管について ・ガスバリア袋、RP 剤（脱酸素剤）、酸素インジケーター ② 木製品の保存処理 ・トレハロース含浸処理法について

H28. 1. 5 ～ H28. 3. 31	分館	宮崎市の遺跡	竹之下遺跡、多宝寺遺跡、権現昔遺跡、大淀3号墳、堂地東遺跡、堂地西遺跡、竹ノ内遺跡、熊野原遺跡、平畑遺跡
------------------------------	----	--------	--

(6) 出前展示

発掘調査で県内各地から出土した遺物などを各地域で展示し、発掘の成果を公開した。合わせて埋蔵文化財センターの業務内容についての紹介を行った。また、本年度も高速道対策局関連のイベントに参加して遺物を展示紹介した。

	開催日	名称	場所	内容	参加者
1	H27. 4. 7 ～ H27. 4. 19	高速道対策局関連図書館ロビー展	県立図書館	東九州自動車道建設に伴う発掘調査遺跡及び他のパネル展	—
2	H27. 4. 11	北方延岡道路開通イベント	北方延岡道路イベント会場	北方延岡道路建設に伴う発掘調査遺跡及び他のパネル・遺物展示	200名
3	H27. 4. 13 ～ H27. 4. 19	高速道対策局関連県庁本館ホール展	県庁本館	東九州自動車道建設に伴う発掘調査遺跡及び他のパネル展	—
4	H27. 10. 24	第16回横市ふれあいウォーキング(史跡めぐり)	平田遺跡	埋蔵文化財センターの業務紹介、平田遺跡出土遺物展示、広報資料配布	98名
5	H27. 10. 22 ～ H27. 10. 26	埋蔵文化財センター活動紹介展及び関連イベント	イオンモール宮崎	(活動紹介展) 埋蔵文化財センターの業務紹介パネル展、「みやざきの埋蔵文化財ハンドブック」配布 (関連イベント) 10月24日～25日 遺物展示・解説、拓本体験、竪穴住居ペーパークラフト制作体験、土器パズル	1200名
6	H28. 1. 8 ～ H28. 1. 14	遺物が語る我がふる里「宮崎平野の遺跡」	県武道館	埋蔵文化財センターの業務紹介パネル展及び武道館周辺の遺跡である宮崎学園都市遺跡群関連の遺物を中心に展示	2381名
7	H28. 1. 30 ～ H28. 1. 31	みやざき産業祭	フローランテ宮崎	埋蔵文化財センターの業務紹介パネル展及び遺物展示・解説、「みやざきの埋蔵文化財ハンドブック」配布、土器パズル	—
8	H28. 3. 12	第9回道づくりを考える宮崎中央女性の会総会、研修会	高鍋町中央公民館	埋蔵文化財センターの業務紹介パネル展及び遺物展示・解説、「みやざきの埋蔵文化財ハンドブック」配布	250名

(7) 出前講座

埋蔵文化財センター職員が県内各地に出向いて、生涯学習団体や学校を対象とした出張講座を実施している。地域の歴史や遺物の展示・解説、遺物に触れる体験、埋蔵文化財センターの業務紹介等を行っている。

	開催日	学校名・機関名	対象	参加者	内容
1	H27. 4. 15	小林市ガイドボランティア協会	一般	21名	① 「西諸の古墳文化」地下式横穴墓について ② 遺物の説明と各時代の特色を解説
2	H27. 4. 22	宮崎市立広瀬小学校	6年生	108名	① 埋蔵文化財センターの仕事 ② 宮崎の歴史、学校周辺・佐土原地区の遺跡
3	H27. 5. 11	川南町立通山小学校	6年生	35名	① 埋蔵文化財センターの仕事 ② 宮崎の歴史、学校周辺、川南町の遺跡と遺物
4	H27. 5. 14	小林市立紙屋中学校	1年生	14名	① 埋蔵文化財センターの仕事 ② 紙屋地区・小林市野尻町の遺跡と遺物、拓本体験
5	H27. 5. 20	宮崎市立広瀬西小学校	6年生	33名	① 埋蔵文化財センターの仕事 ② 学校周辺、佐土原地区の遺跡と遺物
6	H27. 6. 17	日南市立酒谷小学校	5・6年生	15名	① 埋蔵文化財センターの仕事 ② 宮崎の歴史、日南市の遺跡と遺物、拓本体験

(8) 現地説明会・発掘体験

発掘調査中の現場を県民の方に見学していただく遺跡の現地説明会を行った。また、発掘の業務を理解していただくために発掘の体験も行った。

【現地説明会】

	遺跡名	開催地	期日	参加者	内容
1	山ノ口原遺跡	小林市大字東方	H27. 10. 25	77名	① 埋蔵文化財センターの発掘調査について ② 遺跡の調査概要、遺構・遺物の説明と見学 ③ 火山の活動と地層について
2	高樋遺跡	都城市梅北町	H27. 11. 8	50名	① 埋蔵文化財センターの発掘調査について ② 遺跡の調査概要、遺構・遺物の説明と見学 ③ 火山の活動と地層について

【発掘体験】

	遺跡名	開催地	期日	参加者	内容
1	山ノ口原遺跡	小林市大字東方	H27. 10. 25	17名	旧石器時代から縄文時代の遺構・遺物を調査する発掘を、実際と同じ手法や道具を用いて行った。

(9) 見学・研修等で訪れた団体および職場体験の受け入れ

	内容	場所	団体名	期日	人数
1	展示見学	埋蔵文化財センター分館	串間市立福島小学校6年生	H27. 5. 7	71名

	内容	場所	団体名	期日	人数
2	展示見学	埋蔵文化財センター分館	国富町立本庄小学校3年生	H27. 5. 8	53名
3	展示見学	埋蔵文化財センター分館	国富町大田原保育園	H27. 5. 15	39名
4	研修	埋蔵文化財センター分館	宮崎考古学会	H27. 5. 17	9名
5	展示見学	埋蔵文化財センター分館	宮崎市浮之城ひまわり保育園	H27. 6. 3	52名
6	研修	埋蔵文化財センター分館	宮崎県博物館等協議会	H27. 6. 5	52名
7	展示見学	埋蔵文化財センター分館	延岡市発掘作業関係者グループ	H27. 6. 8	8名
8	展示見学	埋蔵文化財センター分館	宮崎市カトリック教会	H27. 6. 14	23名
9	展示見学	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立西池小学校6年生	H27. 6. 18	26名
10	研修	埋蔵文化財センター分館	宮崎地質研究会	H27. 6. 27	6名
11	展示見学	埋蔵文化財センター分館	鹿児島県メルヘンスポーツ中山校	H27. 7. 30	49名
12	展示見学	埋蔵文化財センター分館	皇學館大学文学部	H27. 9. 14	15名
13	展示見学	埋蔵文化財センター分館	東北芸術工科大学	H27. 9. 24	4名
14	展示見学	埋蔵文化財センター分館	日向市教育委員会	H27. 9. 26	12名
15	展示見学	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立加納小学校学童保育	H27. 10. 5	18名
16	展示見学	埋蔵文化財センター分館	都城市立明和小学校4年生	H27. 10. 15	68名
17	展示見学	埋蔵文化財センター分館	新富町新富保育園	H27. 11. 4	55名
18	展示見学	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立木花小学校3年生	H27. 11. 6	42名
19	展示見学	埋蔵文化財センター分館	日南市立北郷小学校4年生	H27. 11. 13	39名
20	展示見学	埋蔵文化財センター分館	みやざき中央支援学校小学部	H27. 12. 2	9名
21	展示見学	埋蔵文化財センター分館	鹿児島大学法文学部	H27. 12. 6	24名
22	展示見学	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立赤江東中学校家庭教育学級	H27. 12. 10	10名
23	展示見学	埋蔵文化財センター分館	宮崎大学教育文化学部学芸員課程	H27. 12. 13	30名
24	展示見学	埋蔵文化財センター分館	鹿児島県立曾於高等学校文理科1年生	H27. 12. 17	18名
25	展示見学	埋蔵文化財センター分館	大分県議会議員県民クラブ	H28. 1. 26	4名
26	展示見学	埋蔵文化財センター分館	青森県埋蔵文化財センター	H28. 2. 15	1名
27	展示見学	埋蔵文化財センター分館	東京都スポーツ文化事業団	H28. 2. 17	6名
28	展示見学	埋蔵文化財センター分館	福岡大学考古学研究室	H28. 3. 16	40名
29	職場体験学習	埋蔵文化財センター本館	宮崎市立佐土原中学校2年生	H27. 6. 24～26	2名
30	職場体験学習	埋蔵文化財センター本館	日章学園中等部2年生	H27. 7. 9～10	2名

	内容	場所	団体名	期日	人数
31	職場体験学習	埋蔵文化財センター本館	宮崎市立広瀬中学校2年生	H27. 11. 11～13	2名
32	職場体験実習	埋蔵文化財センター本館	セサミ・ファーム	H27. 2. 1～2. 5	1名

(10) 資料等の提供

埋蔵文化財センターでは、一般や公共機関、研究機関、研究者の利用希望に応じて、可能な限り資料を提供している。資料提供には資料調査等に係る館内利用（資料の閲覧・実測等）や館外貸出及び掲載許可申請があり、平成27年度は館内利用6件、館外貸出11件、掲載許可12件であった。

【館内利用】

	遺跡名・利用資料名	利用目的	利用日
1	上別府遺跡〔土師器甕〕	資料調査	H27. 8. 11
2	阿蘇原上遺跡、塚原遺跡、堂地西遺跡〔土器・石器〕	資料調査	H27. 10. 29
3	長菌原遺跡、上ノ原遺跡、舟川第2遺跡、赤木遺跡〔石器〕	資料調査	H27. 12. 2
4	舟川第2遺跡〔石器〕	資料調査	H27. 12. 26～27
5	尾立第2遺跡、俵石第1遺跡、赤木遺跡第8地点（第1次）、赤木遺跡第8地点（第3次）〔石器〕	資料調査	H28. 2. 12
6	右葛ヶ迫遺跡、木脇遺跡、倉岡第2遺跡、枯木ヶ迫遺跡、山崎上ノ原第2遺跡、尾花A遺跡Ⅱ、山崎上ノ原第1遺跡〔土器〕	資料調査	H28. 2. 19

【館外貸出】

	貸出資料名	数量	目的	期間	貸出機関名
1	野添遺跡種子炭化物	30点	文化交流展示「海の道、アジアの路」にて展示	H27. 4. 1 ～ H28. 3. 31	九州国立博物館
2	学習キット〔旧石器・縄文時代〕	一式	6年生の社会科授業で使用	H27. 4. 15 ～ H27. 4. 22	宮崎市立西池小学校
3	宮ノ東遺跡、平田迫遺跡、下耳切第3遺跡、老瀬坂上第3遺跡、陣ノ内遺跡、赤坂遺跡、前原南遺跡、石用遺跡、余り田遺跡、荒迫遺跡、枯木ヶ迫遺跡、宇都第3遺跡、柳迫遺跡、中別府遺跡、下田畑遺跡、鳥ノ子遺跡、筆無遺跡、山崎上ノ原第2遺跡、白ヶ野遺跡3B地区、西下	85点	平成27年度企画展Ⅰ「文字が伝えたもの～宮崎県出土考古資料にみる文字と心～」で展示	H27. 4. 16 ～ H27. 6. 30	西都原考古博物館

	貸出資料名	数量	目的	期間	貸出機関名
	本庄遺跡、柿迫遺跡、前田遺跡、高鍋城三ノ丸跡、塩見城跡、下別府遺跡、寺崎遺跡、上妻遺跡B地区〔墨書土器、刻書土器、転用硯、円面硯、石帯〕				
4	堂地西遺跡、平畑遺跡、熊野原遺跡、前原北遺跡、今江城(仮称)、車坂城西ノ城	78点	平成27年度遊古館企画展示「木花中学校区の遺跡たち」で展示	H27. 4. 20 〃 H27. 9. 10	宮崎市教育委員会
5	学習キット〔縄文・弥生時代〕	一式	6年生の社会科授業で使用	H27. 4. 29 〃 H27. 5. 3	国富町立本庄小学校
6	祇園原地区遺跡	3点	平成27年度特別展「生目・西都原・新田原～日向における古墳時代の首長墓系譜を読む～」で展示	H27. 6. 25 〃 H27. 9. 30	西都原考古博物館
7	竹ノ内遺跡、宮崎大学農学部平畑遺跡XXV区、塚原遺跡、下田畑遺跡、尾花A遺跡〔岩偶、舟形軽石、家形軽石、鳥形軽石、猿形軽石、支脚、樹皮布敲石〕	11点	平成27年度国際交流展『美と技と祈り』で展示	H27. 8. 11 〃 H27. 12. 11	西都原考古博物館
8	山田遺跡、王子原遺跡〔網目圧痕土器〕	5点	平成27年度コレクションギャラリー展Ⅱ「縄文時代の植物利用～土器に残された編み・織りの技術」で展示	H27. 9. 4 〃 H27. 9. 30	西都原考古博物館
9	山内石塔群〔土師皿〕、竹ノ内遺跡〔縄文土器、石器、白磁碗〕、下星野遺跡〔縄文土器、石器〕	64点	生目の杜遊古館企画展「清武中学校区の遺跡」で展示	H27. 10. 27 〃 H28. 3. 7	宮崎市教育委員会
10	矢野原遺跡、蔵田遺跡、前ノ田村上第2遺跡、前ノ田村上第2遺跡(二次・三次)〔剥片尖頭器〕、学頭遺跡〔ヒスイ製勾玉〕、倉岡第2遺跡〔孔列土器〕、平峰遺跡3次〔平底瓶〕	15点	平成27年度企画展Ⅱ「それは何を運んだのか～古墳時代のフネ・舟・船～」で展示	H28. 1. 5 〃 H28. 3. 26	西都原考古博物館
11	下耳切第3遺跡〔円面硯〕	1点	讃岐と南九州における文字資料の比較研究のため	H28. 2. 21 〃 H28. 2. 23	宮崎産業経営大学

【刊行物等掲載（写真等資料提供）】

	資料名	掲載刊行物等	依頼者	申請日
1	[写真] 堂地西遺跡写真 4、熊野原遺跡C地区写真 4、平畑遺跡写真 6、熊野原遺跡B地区写真 4、前原南遺跡写真 3、前原北遺跡写真 2、今江城（仮称）写真 5、車坂城西ノ城写真 8	生目の杜遊古館企画展「木花中学校区の遺跡」パネル作成	宮崎市教育委員会	H27. 4. 7
2	[写真・実測図] 右葛ヶ迫遺跡出土玉実測図1・写真1、学頭遺跡出土玉実測図6・写真2、竹之内遺跡出土玉実測図3・写真1、中ノ原遺跡出土玉実測図1・写真1、唐木戸第4遺跡出土玉実測図1・写真1、南平第3遺跡出土玉実測図2・写真1、尾花A遺跡出土玉実測図1・写真1、布平遺跡出土玉実測図1、平畑遺跡出土玉実測図2・写真1、野首第2遺跡出土玉写真 5、野添遺跡出土玉実測図1・写真1、宮ノ前第2遺跡出土玉写真1、陣内第2遺跡出土玉写真1	自著「縄文玉文化の研究-九州ブランドから縄文文化の多様性を探る-」に掲載	熊本大学埋蔵文化財調査センター 大坪志子氏	H27. 4. 17
3	[写真・実測図] 西ノ別府遺跡出土重圏文鏡実測図1・写真1（巻頭図版2）	論文「重圏文鏡の編年と画期」『広島大学大学院文学研究科帝釈峡遺跡群発掘調査室年報 29 考古学研究室紀要』第6号、広島大学大学院文学研究科帝釈峡遺跡群発掘調査室・考古学研究室（編）に使用するため	徳島大学埋蔵文化財調査室 脇山佳奈氏	H27. 5. 22
4	[写真] 祇園原地区遺跡 I 区遺構検出状況（図版2）、8号墳土坑（図版5）	平成27年度特別展「生目・西都原・新田原」の展示図録等に掲載のため	西都原考古博物館	H27. 6. 13
5	[写真] 寺崎遺跡P区遠景（巻頭図版6）、0区全景（図版16）	宮崎日日新聞 10/12に掲載	宮崎日日新聞社	H27. 10. 9
6	[写真] 山内石塔群 図版1 発掘前の全景、発掘後の全景、図版7 IV区検出の状況、図版8 IV区「コ」の字形配列復元の状況、竹ノ内遺跡巻頭カラー全景、図版3 SE2	生目の杜遊古館企画展「清武中学校区の遺跡」パネル作成	宮崎市教育委員会	H27. 10. 27
7	[写真] 旧石器時代・石材学習キット(No.1 3、14)	小学生向け学習まんが「ドラえもん ふしぎのヒストリー	(株) 小学館	H27. 11. 4

	資料名	掲載刊行物等	依頼者	申請日
		①日本はじまる！」に掲載		
8	[写真] 下耳切第3遺跡の作業風景	宮崎日日新聞の連載「変革の時」に掲載	宮崎日日新聞社	H27. 11. 20
9	[写真] 宮ノ東遺跡 図版6-4、6-5、9-1、26-1~4、27-1~6、28-1~2	第64回埋蔵文化財研究集会 発表資料	西都原考古博物館 藤木聡氏	H27. 11. 23
10	[写真] 宮崎県埋蔵文化財センターホームページ掲載 いろいろな形をした火打金	岩手県閉伊郡大槌町教育委員会発行 ふるさと科リーフレット第3巻「大槌の郷土食」	(株) ケアフィット・ネットワーク	H27. 12. 24
11	[写真] 諏訪遺跡 B区上空より、トレンチ2_SE2 土層断面、トレンチ5_1、トレンチ5_2	宮崎県立妻高校での講演資料	柳澤一男氏	H28. 2. 8
12	[図] 「遺跡が語るみやざきの歴史」 炉穴使用想定図 [写真] 「みやざき発掘100年ーいにしへの「道」と交流ー」 礫器と石斧(延岡市山田遺跡)、始良火山噴火直前のナイフ形石器・搔器ほか、剥片尖頭器・角錐状石器・ナイフ形石器・石刃ほか、別府原遺跡から出土したユリ科ネギ属の鱗茎(炭化物)、牛牧1号墳全景	「西都市史 通史編」に掲載	西都市教育委員会	H28. 3. 11

(11) 職員派遣

市町村の教育委員会に埋蔵文化財の専門的・技術的な指導を行い、諸機関・団体主催講演会等の普及啓発行事にも職員を派遣している。

内容	派遣期日	依頼者	派遣職員
考古部門解説員研修	H27. 4. 16	宮崎県総合博物館	柳田 晴子
平成27年度「宮崎県文化講座」講師	H27. 7. 25	宮崎県立図書館	赤崎 広志
科学不思議体験「火山灰観察教室」講師	H27. 8. 2	みやざきの科学教育推進委員会	赤崎 広志
「生目古墳群周辺の地質ガイド講座」講師	H27. 9. 28	宮崎市教育委員会	赤崎 広志
本庄古墳群管理計画策定事業に関する周辺の地形・地質調査	H27. 12. 28	国富町教育委員会	赤崎 広志
門川町庵川窯跡実測指導	H28. 2. 18	門川町教育委員会	柳田 晴子
串間市産鯨類化石調査協力	H28. 3. 7	宮崎県総合博物館	赤崎 広志

(12) 埋蔵文化財担当専門職員研修会

埋蔵文化財センターでは、発掘調査技術等の向上をめざし、県及び市町村埋蔵文化財担当専門職員を対象とした研修を実施している。

内容	場所	期日	参加者数
<ul style="list-style-type: none"> ・発掘調査における積算や作業計画と実態 ・調査成果の情報共有 県、宮崎市、日向市、都城市職員による発表	埋蔵文化財センター本館	H28. 2. 22	38名

(13) 広報出版物

埋蔵文化財センターの「年間行事案内」及び「埋文通信」の発行を行うとともに移動展示会、施設公開等についてもポスターやチラシ、資料等の作成を行った。

	広報出版物	発行年月
1	平成27年度宮崎県埋蔵文化財センター 年報 第19号 平成27(2015)年度	H27. 5
2	移動展示会『ふるさと発掘！埋文キャラバン』関係 みやざきの埋蔵文化財ハンドブック	H27. 8
3	平成28年度宮崎県埋蔵文化財センター 年間行事案内「EVENT CALENDAR」	H28. 3
4	宮崎県埋蔵文化財センター 通信 「ひむか」18号	H28. 3

(14) ホームページ

本年度は五ヶ瀬町、川南町における移動展示会「埋文キャラバン」や分館での施設公開、埋蔵文化財講座、本館における整理事業員の募集など各種の広報にホームページを活用した。また、分館におけるテーマ展示の情報や本館における発掘調査の情報も随時掲載した。刊行物ページのセンター刊行報告書の抄録、本文のPDF検索を一覧表で行えるように改修し、利用者の利便性を高めた。

3 会議・職員研修

(1) 各種会議等への参加

全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会主催の各種会議等に職員を派遣し、職員の資質向上と業務の円滑な推進を図っている。

内容	日程	開催地	出席者
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会	H27. 5. 28～ 5. 29	秋田県秋田市	岩切 隆志 松林 豊樹 安藤 忠洋
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議	H27. 10. 8～10. 9	宮崎県宮崎市	日高 広人 高橋 浩子 谷口 晴子
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会研修会	H27. 11. 26～11. 27	岡山県岡山市	加藤 徹
文化庁平成27年度 第2回埋蔵文化財担当者等講習会	H28. 2. 3～2. 5	鹿児島県鹿児島市等	橋本 英俊 徳田 尚文 徳原 宏樹 後藤 清隆

(2) 共同研究への参加

他研究者機関等が主催する共同研究へ職員が参加するものである。

内 容	日 程	参加者
—	—	本年度は該当者なし

(3) 労働安全衛生関係の講習会等への参加

発掘調査現場及びセンター内での安全衛生の増進を図るため、以下の各講習会へ参加している。

内 容	日 程	参加者
安全衛生推進者養成講習	H27. 4. 23～ 4. 24	根井 英樹 徳田 尚文
地山の掘削及び土止め支保工作業主任者技能講習	—	—
救急救命講座（心肺蘇生法・AED操作法・応急手当）	H27. 5. 18/5. 21	総務課・調査課・普及資料課 各職員
第二種衛生管理者受験準備講習	—	—
第二種衛生管理者免許試験	—	—

IV 宮崎県埋蔵文化財センター管理規則

平成 8 年 3 月 29 日
教育委員会規則第 5 号

改正

平成 12 年 1 月 20 日教育委員会規則第 1 号
平成 12 年 3 月 31 日教育委員会規則第 8 号
平成 12 年 12 月 18 日教育委員会規則第 21 号
平成 18 年 3 月 30 日教育委員会規則第 9 号
平成 19 年 3 月 30 日教育委員会規則第 3 号
平成 20 年 3 月 31 日教育委員会規則第 6 号
平成 26 年 3 月 27 日教育委員会規則第 2 号
宮崎県埋蔵文化財センター管理規則をここに公布する。
宮崎県埋蔵文化財センター管理規則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、別に定めるもののほか、宮崎県埋蔵文化財センター及び宮崎県埋蔵文化財センター分館（以下「埋蔵文化財センター」という。）の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(事業)

第 2 条 埋蔵文化財センターは、次に掲げる事業を行う。
(1) 埋蔵文化財の調査研究に関すること。
(2) 出土品その他の資料の保存及び活用に関すること。
(3) 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備に関すること。
(4) 埋蔵文化財関係者の専門的、技術的な研修及び指導に関すること。
(5) 埋蔵文化財保護思想の普及及び啓発に関すること。
(6) その他埋蔵文化財保護に必要な事業に関すること。

(組織)

第 3 条 埋蔵文化財センターに、次の課を置く。

総務課
調査課
普及資料課

(分掌事務)

第 4 条 前条に規定する各課の分掌事務は、次のとおりとする。

総務課

(1) 職員の人事、給与及び服務に関すること。
(2) 予算の執行及び決算に関すること。
(3) 文書の收受、発送及び保存に関すること。
(4) 公印の管守に関すること。
(5) 施設及び設備の管理に関すること。
(6) その他他の課の所管に属さない事項に関すること。

調査課

(1) 国、県関係事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
(2) 東九州自動車道建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
(3) 重要遺跡の発掘調査及び保護に関すること。
(4) 前 3 号の発掘調査に係る出土品その他の資料の整理に関すること。
(5) 第 1 号から第 3 号までの発掘調査に係る発掘調査報告書の作成等に関すること。

普及資料課

(1) 出土品の保存処理、修復、保存管理及び活用に関すること。
(2) 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備に関すること。
(3) 出土品その他の資料及び埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料（以下「資料等」という。）の貸出しに関すること。
(4) 埋蔵文化財関係者に対する専門的、技術的な研修及び指導に関すること。

(職及び職務)

第5条 埋蔵文化財センターに、次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職務
所長	所務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副所長 (2人)	所長を補佐し、所長に事故があるとき、又は所長が欠けたときは、その職務を代行する。
課長	上司の命を受けて、課に属する事務を処理する。
専門主事	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする事務に従事する。
主任主事	上司の命を受けて、複雑な事務に従事する。
主事	上司の命を受けて、事務に従事する。

- 2 前項に規定する副所長の職務の担当区分は、1人を統括とし、他を業務担当とする。
 3 第1項の規定により副所長が所長の職務を代行する順序は、次のとおりとする。

- 第1順位 統括の副所長
 第2順位 業務担当の副所長

- 4 第1項に規定する職のほか、埋蔵文化財センターに、必要に応じ、次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職務
副参事	上司の命を受けて、埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
主幹	上司の命を受けて、埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
専門主幹	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
副主幹	上司の命を受けて、その相当高度の専門的業務に従事し、又は埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
主査	上司の命を受けて、専門的業務に従事する。

(その他の職)

第6条 前条に規定する職のほか、埋蔵文化財センターに必要なに応じ、技術員を置く。

- 2 技術員は、上司の命を受けて、技能又は労務に従事する。

(開館時間等)

第7条 埋蔵文化財センターの開館時間は、午前9時から午後5時までとする。

- 2 埋蔵文化財センターの入館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

(休館日)

第8条 埋蔵文化財センターの休館日は、次のとおりとする。

区分	休館日
宮崎県埋蔵文化財センター	1 土曜日及び日曜日 2 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。) 3 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで(休日を除く。) 4 特別整理期間(あらかじめ所長が定めて公示する期間をいう。以下同じ。)
宮崎県埋蔵文化財センター 分館	1 月曜日(休日に当たるときを除く。) 2 休日の翌日(土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。) 3 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで 4 特別整理期間

- 2 所長は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、臨時に同項に定める休館日に開館し、又は同項に定める休館日以外の日に休館することができる。

(入館の制限等)

第9条 所長は、埋蔵文化財センターを利用しようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、その入館を制限し、若しくは退館を命じ、又はその利用を中止させることができる。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
 (2) 施設、設備、備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。
 (3) 所長が指定する場所以外において喫煙又は飲食をしたとき。
 (4) 条例若しくは規則又は所長の指示に従わないとき。
 (5) 前各号に掲げる場合のほか、埋蔵文化財センターの管理運営上支障があると認められるとき。

(資料等の館内利用)

第10条 館内において資料等を利用しようとする者は、資料等館内利用承認申請書(別記様式第1号)を所長に提出して、所長の承認を受けなければならない。

(資料等の館外貸出し)

第 11 条 次に掲げるものは、資料等の館外貸出しを受けることができる。

- (1) 国立の博物館、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 2 条第 1 項に規定する博物館及び同法第 29 条の規定により文部科学大臣又は宮崎県教育委員会が博物館に相当する施設として指定したもの
 - (2) 社会教育法（昭和 24 年法律第 207 号）第 21 条に規定する公民館
 - (3) 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 1 条に規定する学校
 - (4) 国又は地方公共団体の設置する教育又は文化に関する調査研究機関
 - (5) 市町村立の歴史民俗資料館等で宮崎県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が定めるもの
 - (6) その他教育長が適当と認めるもの
- 2 資料等の館外貸出しの期間は、30 日以内とする。ただし、所長が特に必要があると認めるときは、これを延長し、又は貸出しの期間中であっても、当該資料等の返還を求めることができる。
- 3 資料等の館外貸出しを受けようとする者は、資料等館外貸出承認申請書（別記様式第 2 号）を所長に提出し、所長の承認を受けなければならない。
- 4 所長は、出土品その他の資料について前項の承認をしようとするときは、次の事項を確認しなければならない。
- (1) 貸出しを受ける目的が当該出土品その他の資料の保存及び活用にとって適切であること。
 - (2) 当該出土品その他の資料の保管、展示等を適切に行うための施設及び設備が整備されていること。
 - (3) 貸出しの期間中当該出土品その他の資料が適切な知識、技能を持つ者に取り扱われること。

(弁償)

第 12 条 入館者、館内利用者又は資料等の館外貸出しを受けた者は、資料等、設備又は備品を亡失し、破損し、又は汚損したときは、所長の指示に従い、その修理又は損害の賠償をしなければならない。

(委任)

第 13 条 この規則に定めるもののほか、埋蔵文化財センターの管理運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成 8 年 4 月 1 日から施行する。
(宮崎県総合博物館管理運営規則の一部改正)
 - 2 宮崎県総合博物館管理運営規則（昭和 46 年宮崎県教育委員会規則第 4 号）の一部を次のように改正する。
(次のよう略)
- 附 則（平成 12 年 1 月 20 日教育委員会規則第 1 号）
この規則は、平成 12 年 1 月 20 日から施行する。
- 附 則（平成 12 年 3 月 31 日教育委員会規則第 8 号）
この規則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。
- 附 則（平成 12 年 12 月 18 日教育委員会規則第 21 号抄）
(施行期日)
- 1 この規則は、平成 13 年 1 月 6 日から施行する。
- 附 則（平成 18 年 3 月 30 日教育委員会規則第 9 号）
この規則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。
- 附 則（平成 19 年 3 月 30 日教育委員会規則第 3 号）
この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。
- 附 則（平成 20 年 3 月 31 日教育委員会規則第 6 号）
この規則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。
- 附 則（平成 26 年 3 月 27 日教育委員会規則第 2 号）
この規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

別記

様式第 1 号

第 10 条関係)

様式第 2 号

(第 11 条関係)

資料等館内利用承認申請書

年 月 日

宮崎県埋蔵文化財センター所長 殿

住 所
申請者 氏 名
電話番号

〔法人にあつては主たる事務所の所在地、
名称及び電話番号並びに代表者の氏名〕

資料等の館内利用をしたいので、宮崎県埋蔵文化財センター管理規則第10条の規定により、次のとおり申請します。

館内利用の目的			
資料等の名称	形 状	数 量	備 考

資料等館外貸出承認申請書

年 月 日

宮崎県埋蔵文化財センター所長 殿

住 所
申請者 氏 名
電話番号

〔法人にあつては主たる事務所の所在地、
名称及び電話番号並びに代表者の氏名〕

資料等の館外貸出を受けたいので、宮崎県埋蔵文化財センター管理規則第11条第3項の規定により、次のとおり申請します。

館外貸出の目的			
資料等の名称	形 状	数 量	備 考
館外貸出期間	年 月 日から 年 月 日まで		

案内図

宮崎県埋蔵文化財センター

所在地 〒880-0212

宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 4019

TEL 0985-36-1171 (代表・総務課)

0985-36-1172 (調査課)

FAX 0985-72-0660

ホームページ <http://www.miyazaki-archive.jp/maibun/>

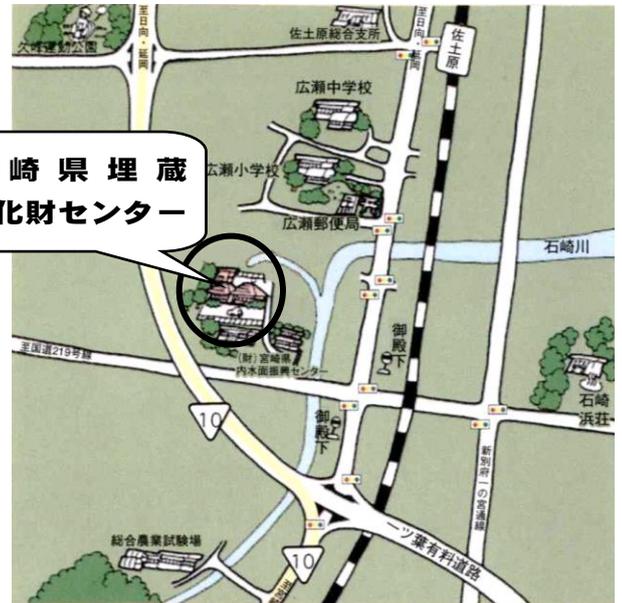
E-mail maizobunkazai-c@pref.miyazaki.lg.jp

アクセス

公共機関：JR 佐土原駅から車で 10 分

宮崎市街地から高鍋町方面宮崎交通バス

御殿下バス停 から徒歩で 8 分



宮崎県埋蔵文化財センター分館

所在地 〒880-0053

宮崎県宮崎市神宮 2 丁目 4-4

TEL 0985-21-1600 (普及資料課)

FAX 0985-26-2634

観覧時間 午前 9 時～午後 5 時

(入館は午後 4 時 30 分まで)

休館日 年末年始 (12 月 28 日～1 月 4 日)

入館料 無料

E-mail maibun-fukyu@pref.miyazaki.lg.jp

アクセス

公共機関：JR 宮崎神宮駅から徒歩で 10 分

綾・国富・平和が丘行き宮崎交通バス

博物館前バス停から徒歩で 2 分

